AI社員のいる会社 第6話

売上は伸びた。利益が残らない。



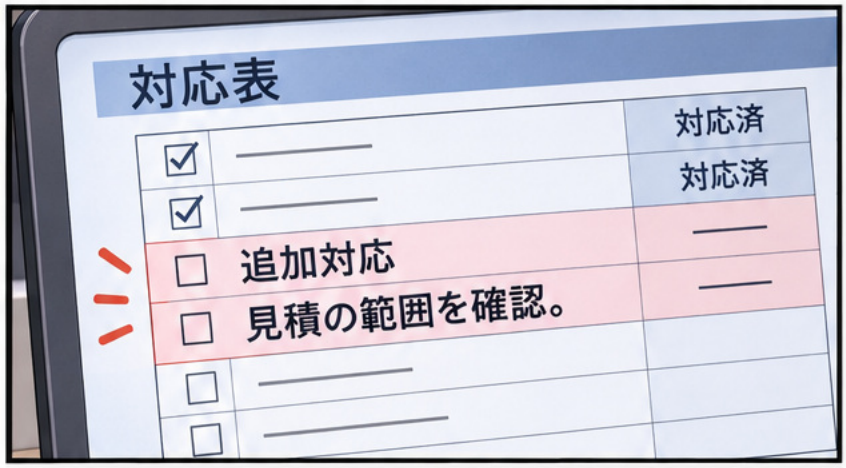


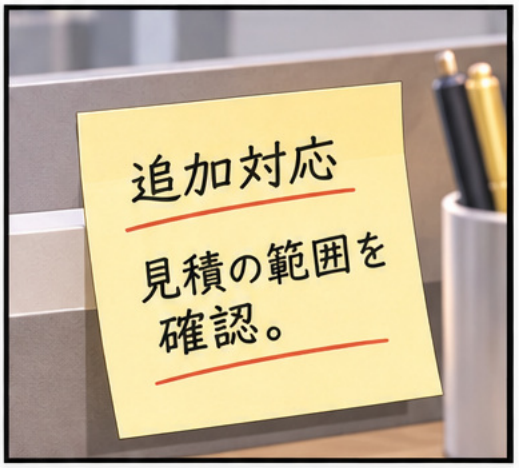





もっと受注を
増やせば、
改善するだろう。
対応待ち
追加対応
でも、現場は
もう手いっぱい
です。
それほど、
仕事が
増えているのか。


はい、その修正も
確認します。


対応表
対応済
対応済
追加対応
見積の範囲を確認。


追加対応
見積の範囲を
確認。




一つは小さくても、
重なると……。


忙しい理由を、
案件ごとに
見られるか。
見積一覧
作業記録
外注明細
記録は
あります。
ただ、
別々の
場所に……。
見積一覧
作業記録
外注明細
資料がない
わけじゃ、
ないんだな。


使ってよい資料は、
この3つです。
見積一覧
作業記録
外注明細


AI社員 業務分析担当
見積と実際の
対応を、
案件ごとに
比べます。


どこで差が
出ているか、
見たい。


案件番号で、
3つの資料を
照合します。
見積
案件番号 B-017
作業
案件番号 B-017
外注
案件番号 B-017


照合の手順
① 案件番号を抽出
② 同じ番号を照合
③ 一致・不一致を判定
見積
案件番号 B-017
作業
案件番号 B-017
外注
案件番号 B-017
照合一致
案件番号 B-017
外注
案件番号 ー
未確定


推測で
つながず、
未確定に
残します。


番号が
合わない
ものは？

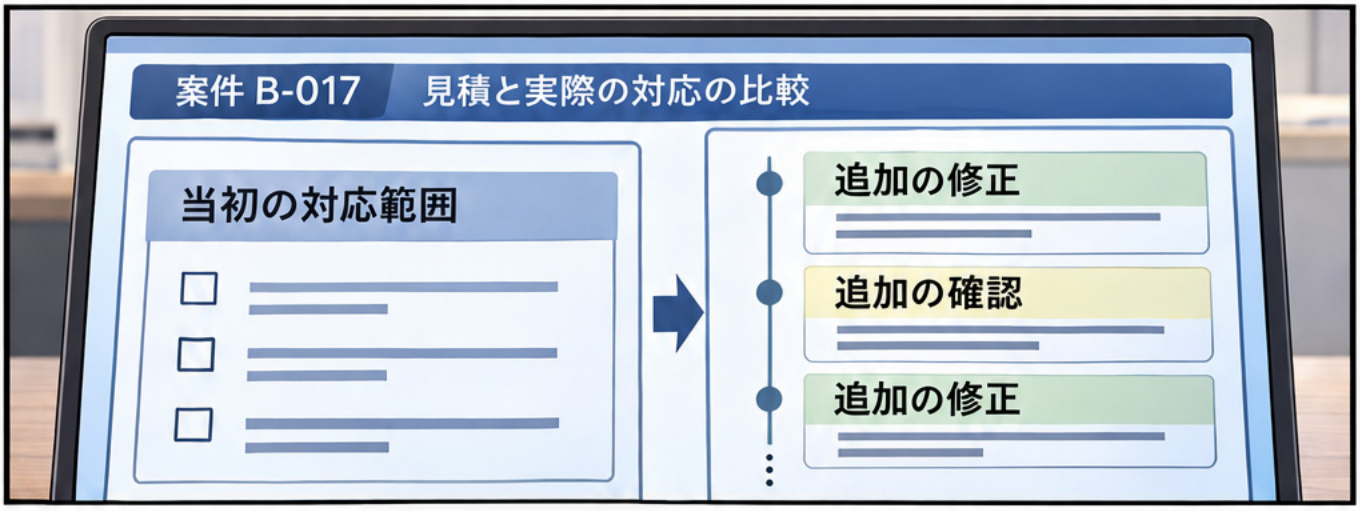

AI社員 業務分析担当
見積との差が
大きい案件を、
確認候補に
しました。


確認候補
B-017
追加対応
要確認
追加対応
要確認
追加対応
要確認
追加対応
要確認


売上の
大きさとは、
順番が
違うな。


この案件、
見積では利益が
出るはずだった。
想定した工数と、
実際の工数に
差があります。
AI社員 業務分析担当
B-017
想定工数
実際の工数
追加対応
追加の修正が、
ここに
入っています。
追加対応


AI社員 業務分析担当
見積の後に、
追加の対応が
記録されています。


案件 B-017
見積と実際の対応の比較
当初の対応範囲
追加の修正
追加の確認
追加の修正

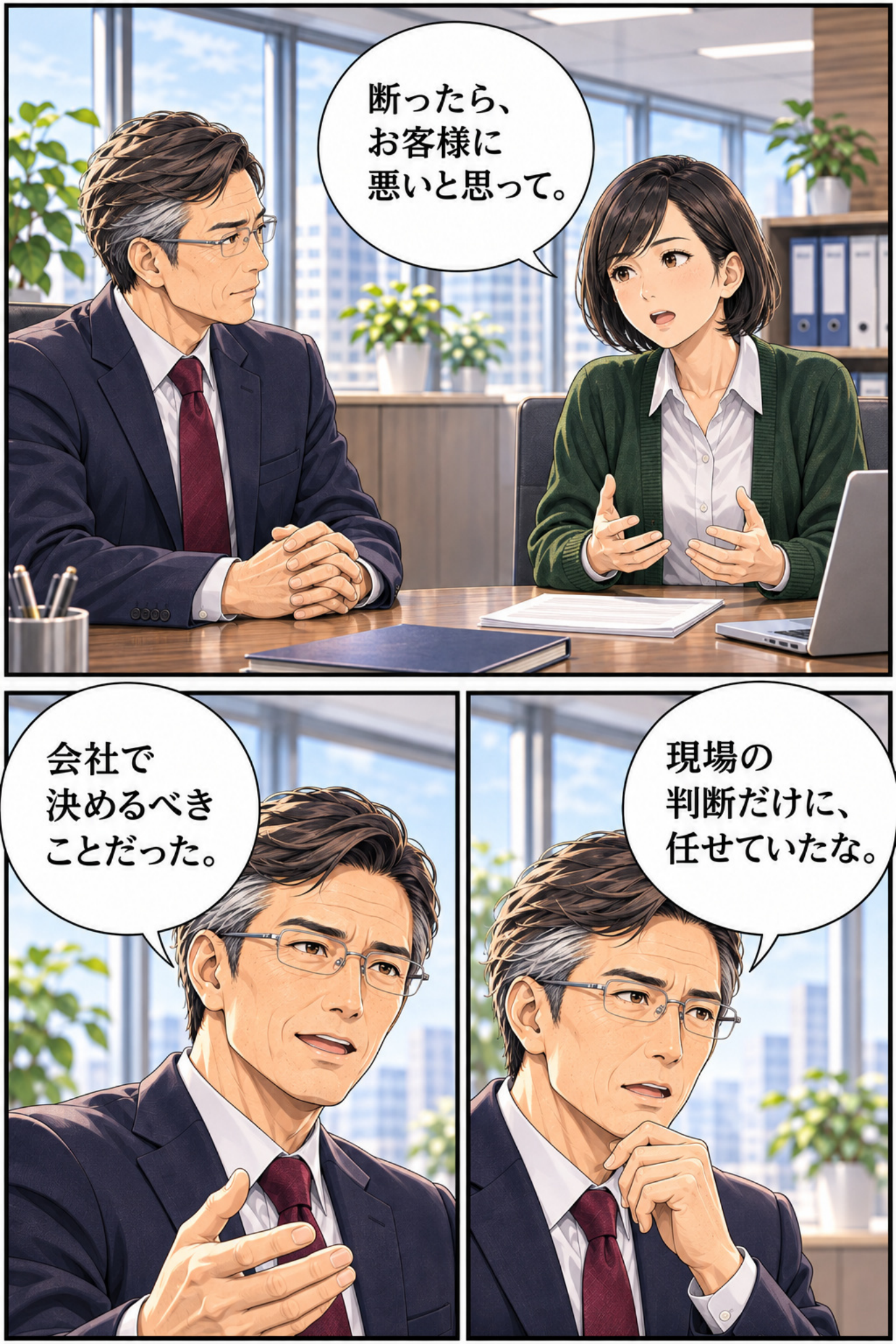

その都度は、
少しだけの
つもりでした。


それが、
積み重なって
いたのか。


喜んで
もらいたくて、
対応して
いました。
追加対応
確認中
でも、
追加の分を
どう扱うか
までは……。


この情報だけで、赤字と決めていい？
AI社員 業務分析担当
いいえ。
原価と追加費用の確認が必要です。
契約の範囲 ： 要確認
原価 ： 未確定
追加費用 ： 要確認
契約の範囲と、経理の確認も合わせます。


確認候補一覧
案件
内容
B-015
B-016
B-017
B-018
この記録が、
確認の根拠です。
AI社員 業務分析担当
確かに、
この対応をしています。
見積書
案件：B-017
当初の対応範囲
作業記録
案件：B-017
追加の修正
集計だけでなく、
元まで戻れるのか。


断ったら、
お客様に
悪いと思って。
会社で
決めるべき
ことだった。
現場の
判断だけに、
任せていたな。


受注
対応範囲
もっと売れ、
と言う前に。
利益が残る
受け方を、
決めるべき
だった。


次の受注前に、確認する仕組みにできる？
現場が迷う前に、確認できるんですね。
確認する項目と、追加見積の下書きを用意します。
AI社員 業務分析担当
受注前チェック
対応範囲
追加時の扱い
原価確認


追加対応の説明案です。
条件は確認してください。
追加対応の確認案
下書き
対応範囲
金額：要確認
社内確認待ち
AI社員 業務分析担当
この範囲なら、
お客様にも
説明できます。
金額と条件は、
こちらで確認する。


この範囲を超える場合は、先にご相談します。
一人で抱えなくていい形にしよう。
先に伝えるほうが、お互い安心ですね。
対応範囲
追加時は相談
確認担当


忙しい理由を、
感覚で話さずに
済みました。


受注前チェック
対応範囲
追加時の扱い
原価確認
未確定


AI社員 業務分析担当
未確定の
項目も、
分けて
残しています。


受注の
数だけでなく、
受け方まで
見られる。


資料を増やしたかったんじゃない。
AI社員 業務分析担当
次に確認すること
対応範囲
見積の更新
確認担当
判断する前に、知りたかったんだ。
次の案件は、受ける前に確認しましょう。


白峰サポート
次の案件も、
根拠から
一緒に見よう。
次の案件（検討）
前提の整理
効果の見立て
リスクの確認
決めるのは、
私たちの
仕事だ。
AI社員 業務分析担当
判断に
必要な
準備を、
整えます。
準備の内容
前提の整理
判断材料の用意
選択肢の比較
数字を並べる会議から、決められる会議へ。
会社の仕事に合わせて育てる、AI社員。
株式会社ヒダネ